

研究・調査報告書

報告書番号	担当
67	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Effect of alcohol consumption, cigarette smoking and flushing response on esophageal cancer risk: a population-based cohort study (JPHC study).</p> <p>アルコール摂取、喫煙、フラッシング反応の食道ガンリスクへの影響：集団コホート研究 (JPHC 研究)</p>	
執筆者	
Ishiguro S, Sasazuki S, Inoue M, Kurahashi N, Iwasaki M, Tsugane S; JPHC Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Lett. 2009 Mar 18;275(2):240-6.	
キーワード	
アルコール摂取、喫煙、フラッシング、食道ガン、コホート研究	
要 旨	
<p>アルコール摂取、喫煙、フラッシング反応の食道扁平上皮ガン (ESCC) への影響を大規模集団コホート研究で調べた。44,970 名の中年あるいは老年の日本人男性について調査を行った。ベースライン調査によって、ノンフラッシャーがアルコールを常飲する割合が多く、週当たりのアルコール摂取量が増えるにつれてフラッシャーの割合が減少することが明らかになった。また、常飲する週当たりのアルコール摂取量が増えるにつれて野菜や果物の摂取量が減少していた。フラッシャーとノンフラッシャーで喫煙状況は変わらず、喫煙者でアルコールを常飲する割合が多い傾向にあることがわかった。フォローアップ調査の期間、合計で 215 例が新たに ESCC と診断され、アルコール摂取と喫煙はそれぞれ ESCC 発症と強い相関が見られることがわかった。ヘビースモーカーでフラッシング反応がある大量飲酒者では ESCC リスクが特に上昇することが明らかになった (HR=3.41、95%CI=2.10-5.51)。以上より、ノンフラッシャーに比べ、フラッシャーでは特に大量飲酒と大量喫煙が ESCC リスクを上昇させることが示唆された。</p>	